

第7回 ことう地域チームケア研究会



くすのきセンター

1階 研修室

平成26年3月13日(木)

交流会

- 講演を聞いた感想・もっと知りたいこと
- 今、私たちの取り組んでいること

など

- 歯科と口腔外科の違いは？
- 歯の治療だけなら、口腔外科より近くの歯科医院に。
- 魚の骨がひっかかったら？→耳鼻科、歯科で。
- 高齢者の義歯 紛失 ティッシュにくるんで紛失する人が多いので、注意を。
- 訪問時に、介助の必要な方には意識してみているが、元気な方の口腔の確認ができていない。
- 研修を受けると意識が高まるが、現場に戻るとできていないことに気づかされる。

- 施設、在宅に出向いても、本人、家族の意向が違ふことがある。
- 行政、医師が訪問治療を柔軟に対応できるという。妊婦、子どもなどもふくめ。
- 認知症...必要性をうまく伝えられないことがある
- 施設介護では、利用者に対して同じケアになっている。変化に合わせた口腔ケアが必要。
- 健康なうちから自身の口腔について知ると、変化に気づくことができる。
- 研修の場→繰り返すことで意識が高まる。

- 薬と口の症状の関係は、症状が出てからでは遅い。新しい薬を使う場合は歯科医師に相談を。
- セルフケア 寝る前のケア
- 専門家によるケア 糖尿病がある人は3～4か月に1回は受診すること。
- かかりつけ歯科医の探し方は、歯科医師会で訪問歯科の紹介ができる。ポータルも準備もしてある。いつでも相談を。
- 衛生材料は通信販売でも購入できる。状態に応じてアセスメントしながら決める。鼻呼吸ができるかどうか。

- 3つの対策 現在必要な人 予備期 若い世代 若い人にケアの必要性を理解してもらうことが大切。歯にお金をかけたくない等意識の変革も必要。
- 最後まで食べたいという思いを大事にする。
- 口腔ケア 汚れていて介入が必要でも受け入れてもらえないケースや、認知症が今後の課題。
- 歯科的をすすめていくことで、医療費が下がればいいが、これから。一部の企業では、歯科治療中断だと、仕事の評価が下がると聞く。

- 開口したままの人には、保湿剤の必要性
- 健康な人も定期的に受診を。痛くならないとなかなか受診できないので、かかりつけ医を持ち、定期的に受診するように。
- 小さい時から歯への意識を高める。
- 口腔加算 うまく継続できていない。
- インプラントは、専門的な歯肉の手入れ等必要になる。
- 認知症の方の受診は、連絡する、写真をとって受診するなどの工夫をするといいい。

- 薬剤師 口腔カンジダ ステロイド 吸入 アドバイスを行っている。薬局での指導。
- 在宅での口腔ケア 介護者の意識の向上
- 歯科衛生士が訪問できるような、介護者が気軽に頼めるシステムがあるといい。
- 訪問看護ステーションに歯科衛生士が入るのもよい。
- まず、介護者ができる事を見つけられるように
- 排泄、食事、口腔

- ケアマネが口腔アセスメントの必要性をわかる。
- 口の中の評価をしていくこと、ヘルパーにブラッシングの仕方を知ってもらう。
- 歯科衛生士による在宅訪問が今後必要になる。
- 歯科検診が職場健診に入っていない所もある。老人健診にも入れられるとよい。
- 抜歯と薬の関係。ワーファリン利用者も治療
- 骨そしょう症の人と歯科治療について
- 歯についての市民意識を高める方法、老人健診金メダルをとれる人を増やしていく。

- 訪問診療を探すときの県を通じたのシステム
- 利点だけでなくリスクも考えて、通院の選択肢も
- 嚥下については、歯科医師だけでなく言語聴覚士や専門の力をかりるのもよい。
- 脱臼を繰り返す人は、口腔外科へ受診
- 歯ブラシは新しい方が効率よくみがけるので、1か月を目安に交換するといいい。
- 口の中を気にすることから始めよう。この後も、訪問で家族に口腔ケアの必要性を啓発していきたい。